

33. ドイツ語の文構造 (2)

1. 従属接続詞と定形後置(主語+…述語)

従属接続詞を文頭において作られる文のことを英語では従属文(節)といい、主文(節)とともに用いられますが、ドイツ語ではそれらをそれぞれ副文および主文といいます。この副文のなかでは人称変化をする定動詞はかならず文のいちばん最後に置かれ、これを定形後置といいます。

Ich weiß, dass er Japaner ist. 「私は彼が日本人であることを知っている」
(主文) (副文)

2. 主文と副文の作り方

従属接続詞を文頭においた文は副文となりますから、その文中の定動詞はかならず定形後置となります。さらに主文とのあいだにはコンマをおいて、どこまでが主文でどこからが副文なのかをわかりやすくすることになっています。

Du wirst bald wieder gesund, wenn du viel schläfst.

「君はたくさん寝れば、すぐにまた健康になるでしょう」

Ich weiß, dass er gut Deutsch spricht.

「僕は、彼が上手にドイツ語を話すということを知っている」

しかしもし主文よりも副文が先行すると、副文も主語以外の文要素ということで主文は定形倒置となります。

Wenn du viel schläfst, wirst du bald wieder gesund.

「君はたくさん寝れば、すぐにまた健康になるでしょう」

Dass er gut Deutsch spricht, weiß ich.

「彼が上手にドイツ語を話すということを、僕は知っている」

3. 従属接続詞には次のようなものがよく用いられます。

als	「…したとき」	as
bevor (ehe)	「…する前に」	before
bis	「…するまで」	till, untill
da	「…なので」	as
damit	「…するために」	in order that, so...that
dass	「…ということ」	that
indem	「…しながら」	while
nachdem	「…したあとで」	after
ob	「…かどうか」	whether
obgleich (obwohl)	「…にもかかわらず」	though, although
seit	「…以来」	since
sobald	「…するやいなや」	as soon as
solange	「…するかぎり」	as long as
während	「…するあいだに」	while
weil	「…だから」	because
wenn	「…ならば、…すると」	if, when
wie	「…のように」	as

初級文法ではこのうち *als*, *da*, *damit*, *dass*, *obwohl*, *weil*, *wenn* の7つはぜひ覚えておきましょう。

これらの従属接続詞のうちには、似たような意味のものがいくつかあります。

a. *als* と *wenn*

als は過去一回かぎりの出来事をあらわし、*wenn* は現在と未来の「とき」をあらわしますが、過去でもちいられると過去の習慣をあらわします。

Als ich diesen Sommer nach Deutschland fuhr, besuchte ich meinen Freund.

「僕は今年の夏にドイツへ行ったとき、僕の友人を訪問しました」

Wenn ich nach Deutschland fuhr, trank ich immer deutsches Bier.

「僕はドイツへ行ったときは、いつもドイツビールを飲みました」

b. *da* と *weil*

da は英語の *as* に相当し「…なので」という軽い理由の気持ちをあらわすことが普通で、そのため日常的にはよくもちいられます。それに対して *weil* は英語の *because* に近い意味で「…であるから」というはっきりした理由をあらわす場合にもちいられることが多く、そのため書き言葉や強い理由を表現したいときに使われます。すでに学んだ *denn* は語順に影響を与えない並列接続詞ですが、英語の *for* に相当し「だって」というくらいの意味で使われます。

Ich gehe heute nicht in die Schule, denn ich bin krank.

「僕は今日学校へ行かない、だって病気なんだから」

Ich gehe heute nicht in die Schule, da ich krank bin.

「僕は病気なので、今日学校へ行かない」

Er ist sehr traurig, weil sein Vater gestorben ist.

「彼はお父さんが亡くなったのだから、非常に悲しんでいるのだ」

英語と同様に、疑問詞も副文の先頭に置かれると従属接続詞として機能します。

Ich weiß, wer das schöne Mädchen ist.

「僕はそのかわいい女の子が誰なのか知っている」

Haben Sie schon gehört, was er zu mir gesagt hat?

「彼が私に何と言ったか、あなたはもう聞きましたか？」

3. 相関接続詞

英語で *not…*, *but…* や *neither… nor…* のように二つ以上の単語のあいだに他の単語をおいた接続詞があります。このようにお互いに関係しあう接続詞のことを相関接続詞とよんでいます。ドイツ語にも次のようなものがあります。

<i>nicht…, sondern</i>	「…ではなく…である」	<i>not…, but…</i>
<i>nicht nur…, sondern auch…</i>	「…だけでなく…もまた」	<i>not only…, but also…</i>
<i>entweder…oder</i>	「…ないしは…」	<i>either…or</i>
<i>weder…noch</i>	「…も…もない」	<i>neither…nor</i>
<i>bald…bald</i>	「ある時は…またある時は」	<i>sometimes…sometimes</i>
<i>zwar…, aber</i>	「なるほど…だが、しかし」	<i>indeed…, but</i>

これらのうち *sondern*, *oder*, *aber* は並列接続詞ですから、このあとに文章が続いても定形正置となりますが、*noch* と *bald* はほんらい副詞ですから、このあとの文章は定形倒置となります。